

今月のテーマ

こどもとくすり

*** おくすり、飲めるかな? ***

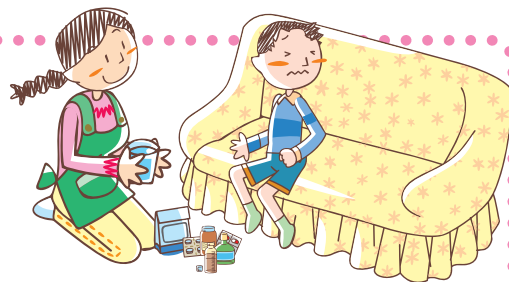
1年で一番寒い時期がやってきました。
普段は元気いっぱいの子供たちも、風邪やインフルエンザなどで体調を崩すことも多いのではないのでしょうか？
今回は子供への上手なお薬の飲ませ方についてお話します。

Point ①

お水やジュースなどに溶かして飲ませる場合は、
飲む直前に溶かし、溶かしたら速やかに飲ませ
ましょう。



時間が経つとお薬の効果が落ちたり、苦みが増したりします。



Point ②

アイスクリームやヨーグルト、プリン、ジャムなど、子供が好きな甘い食べ物や、
市販のお薬を飲みやすくするゼリーに混ぜて飲ませることもできます。※注意



この時、量は子供が食べきれる量にしましょう。

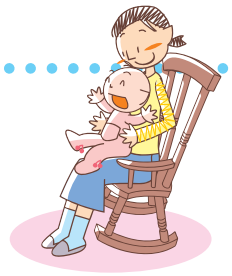


ただし、一部の抗生剤など、溶かしたり混ぜたりするものによって苦みが増すものもあります。詳しくは薬剤師にお尋ねください。

※注意

1歳未満の乳児の場合、ハチミツに混ぜてはいけません。
ハチミツにごくまれに含まれるボツリヌス菌という菌が乳児の腸内で繁殖し、乳児ボツリヌス症を発症してしまうからです。

離乳前の赤ちゃんへの飲ませ方



- ① ミルクや母乳には混ぜないようにしましょう。
お薬のせいで味が変わり、ミルクや母乳嫌いになるのを防ぐためです。
- ② 粉薬の場合、ごく少量のお水やお白湯を加えてペースト状に練り、上あごや頬の内側に擦り付ける。その後、お水などを飲ませましょう。
- ③ シロップ剤(水薬)は、哺乳瓶の先を用いたり、スプーンでごっくんと飲ませましょう。
スポイトを使って、頬の内側を伝いゆっくり喉に流し込む方法もあります。この時、ピュッと勢いよく入れてしまうと、うまく飲み込めないので気をつけてください。



お母さんがお薬を飲む真似をして見せてあげるのもいいですね。

出典：大正富山医薬品株式会社「クラリスドライシロップの飲ませ方」より

乳児に限らず、お薬は通常、「食後に服用」の指示が多いですが、食後にこだわらなくてもいいお薬も多々あります。
「お腹がいっぱいでお薬が飲めない」ということを防ぐためにも、食後服用でないといけなどうかどうかを医師または薬剤師に確認してください。

最後に、一番重要なのは、

“泣いているときに無理矢理飲ませない”ことです。

誤って気管に入ると大変危険です。

病気でしんどいですが、機嫌のいい時を見計らって飲ませてあげましょう。
そして、上手に飲めたときは、たくさん褒めてあげてください。

おくすり飲んで、はやく元気になろうね!

お薬や介護についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、
お気軽にお尋ねください。

みやこ薬局 本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店
北山店・紫竹店・大宮店・みやこケアプランセンター(北山店横)

<http://www.miyako-ph.co.jp>